

# 私立大学研究ブランディング事業 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	211003	学校法人名	華陽学園		
大学名	岐阜女子大学				
事業名	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	1412人
参画組織	文化創造学部, デジタルアーカイブ研究所, 文化情報研究センター, 衣食住生活研究センター, 長寿健康栄養学センター				
事業概要	知識基盤社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し, 新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により, 地域課題に実践的な解決方法を確立するために, 地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。このことにより, 地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として, 地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに観光資源の発掘を行う。				
①事業目的	<p>①本事業は, 地域に根差し地域社会に貢献する大学として, 本学独自で育ててきたデジタルアーカイブ研究を活用し, 地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって, 地域課題の実践的な解決や伝統的産業の活性化並びに新しい文化を創造できる人材育成を行い, 岐阜地域の知の拠点となる大学を目指すものである。</p> <p>②具体的には, 岐阜県が掲げる地方創成イノベーション計画に呼応し, 以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について, デジタルアーカイブ化とその利活用を行い, それぞれの振興と発掘を行う。地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し, 地域で新たな価値を創造できる人材の養成を行う。</p> <p>(1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興(飛騨地区)</p> <p>(2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと世界遺産登録への支援(美濃地区)</p> <p>③上記資源のデジタルアーカイブ研究では, リアルタイムに情報を更新する本学独自の「知の創造サイクル」を用いて地域課題の解決(図2)に取り組み, 人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行う。</p>				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	<p><b>【実施目標】</b></p> <p>○本年度は継続して飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに加えて新たに郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブを開発するために, 伝統的な生活・文化の資料を広く収集し, デジタルアーカイブ化を進め, 「知の増殖型サイクル」を構成し, 地域資源デジタルアーカイブに必要な情報の推進を図る。</p> <p>○本年度は, 主に大学デジタルアーカイブの機能として, 本学の教育資料等の有機的な総合保管関連システムの開発研究を行い, これらを支える専門職のための人材養成のためのカリキュラム並びにテキストの開発を行う。</p> <p><b>【実施計画】</b></p> <p>①平成29年度からのこの地域資源デジタルアーカイブ(飛騨高山匠の技・郡上白山文化遺産)の開発, 課題解決力の向上, アクティブラーニングによる社会人を対象にした講習の構成, 社会へ適応力の向上, 「知の増殖型サイクル」を確かな教育の方法, 資料を明らかにする研究を推進する。この成果をインターネット, 講習会等で広く提供・公開する。</p> <p>②地域からの委託研究の成果や本学の研究資料等のデジタルアーカイブ化を進め, 「知の増殖型サイクル」を構成し, 地域の活性化を図る。</p> <p><b>【目標達成度】</b></p> <p>①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの開発 (コンテンツ数40,000件以上目標)</p> <p>②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの開発(コンテンツ数20,000件以上目標)</p> <p>③地域資源のデータベースによる「知の増殖型サイクル」の実証事例の調査(全国10か所の調査)</p> <p>④本学の大学デジタルアーカイブの活用度(Webページの閲覧数 30,000件/年以上)</p> <p>⑤本学のブランドの浸透度(在校生アンケート調査)(現在1.8% → 30%)</p> <p>⑥テキストの開発率20%</p>				

<p><b>③平成30年度の事業成果</b></p>	<p><b>【実施目標1】</b>  ○本年度は継続して飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに加えて新たに郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブを開発するために、伝統的な生活・文化の資料を広く収集し、デジタルアーカイブ化を進め、「知の増殖型サイクル」を構成し、地域資源デジタルアーカイブに必要な情報の推進を図る。</p> <p><b>【具体的施策1】</b>  ①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築(2017.4-現在)  コンテンツ数:37,509枚(3月末現在)/40,000枚(平成30年度達成目標)  :達成度 94%</p> <p>②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築(2018.4-現在)  コンテンツ数:8,775枚(3月末現在)/20,000枚(平成30年度達成目標)  :達成度 44%</p> <p>②2019.2.23:私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 郡上～を開催(206名参加)</p> <p>③2018.12.18-2019.2.23:私立大学研究ブランディング事業～準デジタルアーキビスト資格取得講座(全5回)を開催(22名参加)</p> <p>③2018.12.12-2019.2.11:高校生のためのデジタルアーカイブクリエイータ資格取得講座開催(富山・沖縄・岐阜)</p> <p><b>【実施目標2】</b>  ○本年度は、主に大学デジタルアーカイブの機能として、本学の教育資料等の有機的な総合保管関連システムの開発研究を行い、これらを支える専門職のための人材養成のためのカリキュラム並びにテキストの開発を行う。</p> <p><b>【具体的施策2】</b>  本年度は以下のテキスト資料を開発し、人材養成の講座などで活用した。</p> <p>①飛騨高山匠の技とところ、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書、2017 Vol.1 No.1</p> <p>②飛騨高山匠の技、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol.1 No.1</p> <p>③沖縄デジタルアーカイブセミナー、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol.2 No.1</p> <p>④デジタルアーカイブ カイブ の資料管理の基礎、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol.3 No.1</p>
<p><b>④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p><b>(自己点検・評価)</b>  ①デジタルアーカイブを実施していくためには、各機関の連携が重要である。本年度においては、東京大学・沖縄女子短期大学・郡上市・中部国際空港と連携し、多元的なデジタルアーカイブの構築が可能になった。</p> <p>②本学の遠隔教育とブランディング事業を、うまくリンクしながら進めていくことが必要である。そこで、今年度は、沖縄デジタルアーカイブセミナーにおいては、遠隔システムを活用し講座を実施した。</p> <p>③デジタルアーカイブの構築には、Web公開型のデータベースと長期保存非公開型データベースを構築した。このことにより、著作権などの問題を回避しながらデジタルアーカイブの構築をすることができた。</p> <p><b>(外部評価)</b>  ○高山文化を長い時間をかけて残して頂き、ありがたいと思っている。たった10年でも街並みや生活が変わっているため、貴重な資料になると思う。高山でも伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘が課題になっている。祭りを見るだけでは観光資源にならない、アドバイスを頂きたい。</p> <p>○3つのキーワード、伝統文化産業の振興、観光資源の発掘、地方創生はとても大事なことと思う。過去の文化をどのように継承させるかについては、デジタルアーカイブは重要である。</p> <p>○そのためには、岐阜女子大学のすべての学生に可能となるような授業を進める必要がある、是非進めていただきたい。物の見方の指導も必要である。学生を大事にして、この活動を全国的に広がるようにしてほしい、期待している。</p> <p>○高い技術と一般の方をどのようにコラボレーションするか、地域と学生をどのように共同作業としてつなげるか、民間企業をどのように生かすか、行政でも連携を重視しており、いずれも共通の課題であると考えている。岐阜市ではシビックプライドとして、地域の人に愛着を持っていただいて行政が始まると考えている。深い理解と共感が必要である。</p>
<p><b>⑤平成30年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>①郡上と沖縄での報告会のための講師謝金・旅費 ②チラシ・冊子印刷費(デジタルアーカイブin郡上、沖縄デジタルアーカイブ講習会) ③ モデル調査のための旅費・消耗品費 ④ デジタルアーカイブ撮影編集機器の整備 ⑤教材作成費(テキスト並びにDVD)⑥ 報告会会場使用料 ⑦講師依頼旅費・消耗品費 ⑧飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ並びに郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築費用(Web.撮影旅費) ⑨郡上白山文化遺産デジタルアーカイブに調査旅費 他</p>